

第 42 回日本臨床細胞学会 北陸連合会学術集会

プログラム

世話人 黒瀬 望

(国立病院機構 金沢医療センター 臨床検査科・病理診断科)

期日 : 令和 8 年 9 月 13 日 (日) 12:20 ~ 17:30

会場 : 国立病院機構 金沢医療センター (外来診療棟 3 階 講堂)

主催 : 日本臨床細胞学会北陸連合会

会場のご案内



国立病院機構 金沢医療センター

〒920-8650

石川県金沢市下石引町1-1

076-262-4161

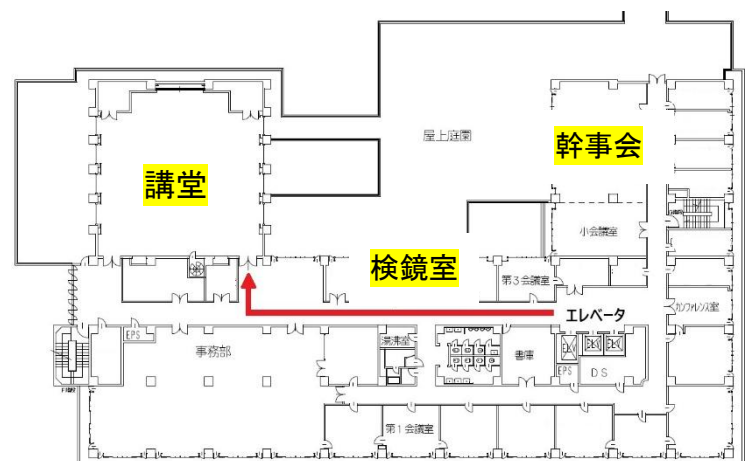
バス	金沢駅東口 6 番のりば 11 番・12 番系統 → 出羽町(でわまち)下車 約 20 分
タクシー	金沢駅東口より 約15分

○ 車でお越しの方は、会場受付にて**無料駐車券**をお渡しします。駐車券をご持参ください。

駐車場 見取り図



会場 3階見取り図



プログラム

- 11 : 05 **学会賞選考委員会** 大会議室（ 外来診療棟 3階 ）
- 11 : 35 **幹事会** （ 終了予定時刻 12 : 05 ）
- 12 : 00 **スライドセミナー標本鏡検** 第2会議室（ 外来診療棟 3階 ）
（ 北陸連合会 HP:<https://www.jscc-hokuriku.com/> ）
- 12 : 20 **開会の辞** 国立病院機構 金沢医療センター 臨床検査科 黒瀬 望
- 12 : 25～13 : 00 **一般演題 I** 座長 金沢大学 医薬保健研究域 保健学系 病態検査学
笠島 里美
- 13 : 00～13 : 35 **一般演題 II** 座長 黒部市民病院 臨床検査科 丹羽 秀樹
- 13 : 35～14 : 10 **一般演題 III** 座長 福井県立病院 病理診断科 海崎 泰治
- 14 : 10～14 : 30 **総会**
- 14 : 30～15 : 20 **特別講演 I** 座長 国立病院機構 金沢医療センター 臨床検査科 黒瀬 望
「 動物病理学の実際：動物の病気は、だれが、いつ、どうやって診断
しているの？ 」
田邊 美加 先生（ 動物病理診断センター ）
- 15 : 20～15 : 30 **休憩**
- 15 : 30～16 : 30 **スライドセミナー** 座長 金沢医科大学 第2病理学 熊谷泉那
- 16 : 30～16 : 40 **休憩**
- 16 : 40～17 : 30 **特別講演 II** 座長 国立病院機構 金沢医療センター 臨床検査科 中田 聡子
「 口腔細胞診の判定におけるポイント -マクロ所見とミクロ所見の基本像- 」
田沼 順一 先生（ 新潟大学大学院 医歯学総合研究科 口腔病理学分野 ）
- 17 : 30 **閉会の辞** 国立病院機構 金沢医療センター 臨床検査科 黒瀬 望



12 : 20 開会の辞 黒瀬 望 (国立病院機構 金沢医療センター 臨床検査科)

12 : 25 一般演題 I 座長 笠島 里美
(金沢大学 医薬保健研究域 保健学系 病態検査学)

1. 非浸潤型多形腺腫由来癌(CXPA; Carcinoma ex pleomorphic adenoma, in situ intracapsular type)の一例

○森龍也, 水口敬司, 嶋口智恵, 酒野香織, 大川麗, 奥田未悠, 山本菜緒, 伊藤 歩美, 池田 博子
金沢大学附属病院 病理診断科・病理部

多形腺腫由来癌(CXPA)は全唾液腺腫瘍の約4%を占める稀な腫瘍で、多形腺腫の長期経過や再発例に多く見られる。今回、耳下腺穿刺吸引細胞診でCXPAと推定しえた一例を報告する。症例は70歳代女性。約30年前から右耳下腺腫瘍を自覚していた。細胞診では多形腺腫成分を背景に、核異型の強い大型細胞を認めたことからCXPAを疑った。手術検体では多形腺腫内に上皮内癌を認め、非浸潤型CXPAと診断された。CXPAの細胞学的特徴について考察する。

2. 硝子体浸潤再発をきたしたDLBCL(びまん性大細胞型B細胞リンパ腫)の一例

○川崎茉琴¹, 清水瞭¹, 大兼政良育¹, 尾山武^{2,3}, 高田麻央¹, 津幡裕美¹, 竹中美千穂¹,
寺内利恵¹, 熊谷泉那^{1,4}, 塩谷晃広^{1,2}, 山田壮亮^{1,2}
金沢医科大学病院 病院病理部¹, 同 臨床病理学², 同 看護学部³, 同 第2病理学⁴

72歳、女性。視力低下を主訴に当院眼科を受診し、硝子体細胞診にて、DLBCL(びまん性大細胞型B細胞リンパ腫)の眼内浸潤再発と診断された患者。3年前に子宮頸部細胞診と子宮内膜生検で骨盤内DLBCLと診断され、治療し寛解状態であった。初発時と再発時の細胞学的所見を提示し、硝子体細胞診の臨床細胞学的重要性およびその鑑別診断と診断上の留意点について報告する。

3. 細胞診にて唾液腺導管癌を疑ったびまん性大細胞型B細胞リンパ腫の一例

○延田結美¹, 高橋瑛明¹, 田尻菜月¹, 都竹遥¹, 佐藤加奈¹, 水口聖哉¹, 江末綾子¹, 大西博人¹,
新谷慶幸¹, 津山 翔², 片柳和義², 湊宏²
石川県立中央病院 医療技術部検査室¹, 同 病理診断科²

症例は60代男性。右顎下部に軽度圧痛を伴う腫瘍性病変を認め当院紹介となった。超音波検査にて25mm大までの境界明瞭な腫瘍を認め、EUS-FNAが施行された。顎下部腫瘍穿刺吸引細胞診では、壊死性背景に結合性の緩い異型細胞集塊を多数認め、唾液腺導管癌を推定した。手術では顎下部腫瘍に加え、副咽頭間隙腫瘍も摘出された。組織診断の結果、細胞診との乖離が認められた。細胞学的特徴と鑑別点について供覧する。

4. 腎細胞癌の膵転移の一例

○寺島睦¹, 山岸豊¹, 中西香¹, 鈴木啓仁¹, 永田かおり¹, 中田聡子^{1,2}, 黒瀬望^{1,2}

国立病院機構 金沢医療センター 臨床検査科¹, 同 病理診断科²

腎細胞癌の転移は肺・骨などが多く、膵転移は比較的まれである。また、術後数年以上経過してから転移例も認められる。70歳代男性。左腎結石のため当院受診。22年前に右腎癌摘出術の既往がある。結石除去後の造影 CT にて左腎と膵頭部に小結節が認められた。左腎小結節は他院にて腎細胞癌と診断され、ラジオ波照射がなされた。膵病変の軽度増大がみられたため、EUS-FNA が施行され、腎細胞癌の転移と診断された。

5. 腹膜播種を認めた膵 IPMN の 1 剖検例

○米村圭祐^{1,2}, 出合日南¹, 下田翼¹, 鈴木美奈¹, 海道一恵¹, 笠島里美², 金谷太郎³, 小林雅子¹

金沢市立病院 中央診療部 臨床検査室¹, 金沢大学 医薬保健研究域 保健学系 病態検査学²,
金沢市立病院 産婦人科³

70代男性。画像検査で膵尾部嚢胞性腫瘍および腹水貯留を認めた。腹水細胞診では胞体内粘液を有する高円柱状異型細胞を認め、セルブロック標本の免疫細胞化学から IPMN の腹膜播種と診断した。病理解剖では膵尾部に径 40mm の腫瘍と多数の腹膜粘液状結節を認め、組織学的に IPMC, invasive およびその腹膜播種と診断した。IPMN 症例の腹水細胞診において粘液産生を伴う高円柱状異型細胞を認めた際は、腹膜播種を念頭に置く必要がある。

6. 子宮頸部 HPV 単独検診時代の新しい細胞診を考える

○笹川寿之¹, 大河戸光章³, 岡山香里⁴, 山田壮亮², 高倉正博¹

金沢医科大学 産科婦人科¹, 同 臨床病理学², 杏林大学 臨床検査技術学科³,
国際医療福祉大学 医学検査学科⁴

HPV 単独検診トリアージに細胞診を用いるための診断基準を再考する。JHERS2021 (HPV ワクチンの有効性評価) 研究に用いた細胞診スライド 588 枚を 1 名の専門医と 2 名の細胞検査士 B, C が Blind で検鏡した。専門医 A の CIN2/3 検出感度は 76%/76%、一方、細胞検査士 B, C のそれぞれ 40%/37%, 41%/30%となり、細胞検査士の感度は JHERS 研究のそれと同等であった。

7. 子宮全摘術後長期の経過を経て膣断端に腺癌の再発を来した混合型大細胞神経内分泌癌の一例

○野口馨¹, 南里恵², 朝日悠斗¹, 下方望¹, 内山莉奈¹, 矢野彩子¹, 酒井哲也¹, 清水雅彦¹,
橋本未紅³, 岡山友里恵³, 相川あかね³, 中西ゆう子³, 内山明央³, 石澤伸³
富山県立中央病院 検査科¹, 同 産婦人科², 同 病理診断科³

症例は70歳代女性。X-17年(50歳代)に子宮頸癌に対して広範子宮全摘術が施行され、腺癌成分を少量伴う大細胞神経内分泌癌と診断された。その後膣断端の細胞診で5年にわたり悪性細胞が認められていたが、組織診及び放射線画像では再発の所見は得られなかった。以後細胞診も陰性化していたが、X年に細胞診で悪性腫瘍が認められ、組織診で腺癌成分の再発が認められた。経過でみられた細胞像も含め報告する。

8. 長期経過をたどれた子宮体部漿液性癌の一例

○佐賀良子¹, 布留智美¹, 井上祝維¹, 前田宜延²
富山赤十字病院病理検査課¹, 同 病理診断科²

症例は60歳代女性。中等度精神発達遅滞で近医精神科通院中、吐血・嘔気で20XX年〇月に当院救急搬送された。入院時のCT検査で子宮腫瘍(子宮筋腫疑い)を指摘されており親族から精査希望があり産婦人科受診となった。初回の内膜細胞診で萎縮内膜腺細胞が見られる中、線毛細胞化生、好酸性化生を示す集塊や、核腫大が強く軽度の重積を示す集塊が認められた。腫瘍性と断定できる所見には乏しかったが疑陽性で報告した。子宮全摘の手術が施行されるまでの細胞所見等の経過を考察を加え報告する。

9. 子宮体部中腎様腺癌(MLA)の一例

○真田佳奈¹, 古市和美¹, 松川遥佳¹, 鎌田公美子¹, 前田響希¹, 中屋佳子¹, 木村純也¹,
樋口翔平¹, 今村好章², 福島万奈¹
福井大学医学部附属病院 病理診断科・病理部¹, フクイ病理診断クリニック²

症例は60代女性。不正性器出血を主訴に前医を受診し、内膜生検で類内膜癌と診断され、精査加療目的に当院紹介となった。当院の細胞診では、小型核を有する異型細胞が軽度重積性に出現し、類内膜癌疑いと報告した。組織生検では、N/C比の高い腫瘍細胞が管状・乳頭状に増殖し、一部に索状増殖や充実性胞巣を認め、MLAと診断された。子宮全摘術、両側付属器摘出術およびリンパ節郭清が施行された。今回、細胞診標本を再検討し報告する。

14 : 30～15 : 20 特別講演Ⅰ 座長 黒瀬 望

(国立病院機構 金沢医療センター 臨床検査科)

「 動物病理学の実際： 動物の病気は、だれが、いつ、どうやって診断しているの？ 」

田邊 美加 先生 (動物病理診断センター)

動物の病気はいったい誰が診断しているのだろうか？ふと疑問に思ったことはないだろうか。獣医師が診断を担うことは想像がつくものの、それ以上は世間に知られておらずブラックボックスであるように思う。

動物の病理学やその検査は「獣医病理学」と称され、人医療と同様に、「細胞診」「組織診」「病理解剖・剖検」に分かれており、日々、これらの診断業務を通じて獣医療を支えている。人医療と大きく異なるのは、獣医病理学では幅広い動物種を扱う点にある。昆虫などの無脊椎動物が含まれることもあるが、基本的に、ペット、実験動物、家畜、動物園動物がその対象となる。そのため、動物の病理検査は、大学や検査会社だけではなく、製薬会社の実験室、屠畜所、家畜衛生保健所、動物病院、農場、動物園や水族館など、さまざまな場所や状況下でも行われている。病理検査は主に獣医師が担っているが、愛玩動物看護師や薬剤師が検査を行うこともある。

日本では「日本獣医病理学専門家協会」が認定試験を毎年実施し、獣医病理学専門家の質的レベルを保つ努力がなされている。また、海外の認定医試験を合格した獣医病理学専門医も多く活躍している。ただし現在のところ、日本では、動物のための細胞検査士に相当する資格試験はない。

本講演では、動物の病理学の体系や検査体制について、具体的な事例や症例を交えて紹介したいと考えている。

15 : 20～15 : 30 休憩

15 : 30～16 : 30 スライドセミナー

座長 熊谷 泉那（金沢医科大学 第2病理学）

1. 出題者 公立松任石川中央病院 産婦人科 中村 充宏
指定回答者 福井厚生病院 検査課 羽尾 颯乃

2. 出題者 福井県済生会病院 病理診断科 川島 篤弘
指定回答者 市立砺波総合病院 臨床病理科 杉口 祐恵

3. 出題者 富山大学付属病院 病理診断科 南坂 尚
指定回答者 金沢大学附属病院 病理診断科・病理部 奥田 未悠

16 : 30～16 : 40 休憩

16 : 40~17 : 30 特別講演Ⅱ 座長 中田 聡子

(国立病院機構 金沢医療センター 臨床検査科)

「 口腔細胞診の判定におけるポイント -マクロ所見とミクロ所見の基本像- 」

田沼 順一 先生 (新潟大学大学院 医歯学総合研究科 口腔病理学分野)

近年、2019年に舌癌 (Stage IV) を公表した著名人の影響もあり、口腔がんに対する社会的関心が高まった。しかしながら、口腔がんに関する正しい知識や早期発見の重要性は、一般市民のみならず歯科医療従事者においても十分に浸透しているとは言い難い。国立がん研究センターのがん統計 (2024年) によれば、口腔・咽頭癌の罹患者数は年間約2万人であり希少癌に分類されるものの、死亡者数は約8,000人に達しており、その死亡率は決して低くない。このことから、口腔がんの早期発見・早期治療の重要性が改めて認識されるべきである。

一方、口腔粘膜は直視可能な解剖学的特徴を有することから、病変の発見は容易であると考えられがちである。しかし、口内炎や歯肉炎などの炎症性病変は症状の増悪と軽快を繰り返すため、初期の口腔がんや口腔潜在的悪性疾患 (OPMDs) が見過ごされることも少なくない。その結果、受診の遅れによって進行癌として発見される症例も依然として存在している。

従来の口腔細胞診では、検体採取や塗抹操作に一定の経験と技術を要し、乾燥アーチファクトなどの問題が診断精度に影響を及ぼすことがあった。これに対し、近年普及が進む液状化検体細胞診 (Liquid-Based Cytology: LBC) は、採取者の技術差による影響が少なく、開業医や研修医を含む幅広い医療従事者が簡便に実施可能である。また、患者への侵襲も低く、口腔粘膜病変のスクリーニング法として有用性が高い。

本講演では、本邦における口腔がんの現状を概説するとともに、LBCを用いた口腔細胞診の採取方法および検体提出手順について解説する。さらに、正常口腔粘膜にみられる表層細胞、中層細胞、傍基底細胞などの細胞学的特徴を提示し、正常細胞像の理解を基盤として、日本臨床細胞学会口腔細胞診ガイドラインに基づく NILM、OLSIL、OHSIL および SCC の判定基準を解説する。また、日常診療で遭遇する口腔潜在的悪性疾患や炎症性疾患などの鑑別診断上のピットフォールについても症例を交えて紹介し、口腔細胞診の実践的活用について考察する。

17 : 30 閉会の辞 黒瀬 望 (国立病院機構 金沢医療センター 臨床検査科)

本学会にご協賛いただきました下記の会社に厚く御礼申し上げます

第 42 回日本臨床細胞学会北陸連合会事務局

広告賛同会社（五十音順）

アステラス製薬株式会社

一般社団法人シーピーエル

株式会社アルプ

株式会社スズケン

ささがわ女性クリニック

TISI 株式会社

なお歯科クリニック 石川口腔細胞診ネットワーク

平野純薬株式会社

丸善雄松堂株式会社

丸文通商株式会社



変化する 医療の最先端へ

私たちにとって、患者さんは常にすべての中心です。アンメットメディカルニーズの高い疾患領域において新たなヘルスケアソリューションを開拓する、私たちの取り組みの原動力が患者さんです。

私たちは、変化する医療の最先端に立ち、科学の進歩を患者さんの「価値」に変えるグローバルライフサイエンス企業です。

詳細はastellas.comをご覧ください





病理・細胞診検査業務支援システム

エキスパス EXpath

病理検査室の見える化を実現し、保険医療機関間連携を強化した新バージョン Ver.5



数多くの導入で培ったノウハウを活かした多様な機能で、

病理医および病理検査技師の作業効率向上を実現します。

電子カルテや周辺システムとの連携で、病理データを病院全体で共有し、

臨床部門での病理データの活用にも貢献します。

TISI株式会社

広域IT部2事業本部/医療ソリューション事業部/医療ソリューション第2部
〒990-8573 宮城県高山市牛島町南2-2(ポータルムスクエア) TEL:090-1704-0886
<https://www2.tisi.jp/service/detail/esp/ath/>





SASAGAWA
WOMEN'S CLINIC

ささがわ女性クリニック

この街で、

あなたを一番に想う

場所でありたい。



〒920-3124 金沢市荒屋1丁目87

TEL: 076-285-6116, FAX: 076-285-6211



人と人とのふれあいを
大切にする企業であり続けたい。



平野純薬株式会社
Creative Power & Technical Innovation

【福井本社】 福井市下馬2丁目1420番地
【金沢支店】 金沢市東江西1丁目100番地
【富山支店】 富山市石坂1117番1

TEL.0776-37-4890 FAX.0776-50-1707
TEL.076-239-0758 FAX.076-239-0759
TEL.076-442-4890 FAX.076-442-1707

平野純薬 
<http://www.hirano-j.co.jp/>

健やかな未来のために。

真のソリューションを実現する 価値あるサポート。

丸文通商は、医用機器と科学機器の供給を通じて、人々の健康維持と新しい産業の創造に貢献しています。
取り扱いメーカーとの緊密な連携により最新の製品情報をスピーディに提供するとともに、
自社のカスタマー・エンジニアによるメンテナンス体制を構築。
真のソリューションを実現する価値あるサポートを展開しています。



医用機器部門

放射線画像診断・システムの構築はもちろん、
マーケティングに役立つアドバイスを行う
など、バイエルコンサルタントとして
お客様に最良のサポートをしています。



科学機器・産業機器部門

数えどなく技術革新を続ける科学機器の
最新情報を幅広く収集しながら、ユーザー
ニーズに応じた、最適なマシン・システム
をコーディネートしています。



技術・サービス部門

メンテナンスや故障などのアフターケア
によって、ユーザーをサポートするととも
に、オリジナル製品や各種システムの構築
にも取り組んでいます。

「技術」をつなぐ、「価値」をつなぐ。
丸文通商株式会社

金沢支店

〒920-0885 石川県金沢市浅野一丁目40番地

TEL 076-269-1880 / FAX 076-269-2522

<https://www.marubun-tsusho.co.jp/>

会社概要

創 設 1946年(昭和21年)7月

設 立 1981年(昭和56年)3月

本 社 〒920-0306 石川県金沢市浅野一丁目40番地

TEL 076-269-1880(内線) FAX 076-269-2522

支 店 金沢支店 富山支店 福井支店 新井支店 新潟支店 白山センター

石川支店 七尾支店 小松支店 金沢支店 中津川支店

事業内容 医用機器・科学科学機器・産業機械の提供 設備保守サービス

F06-01-0004

参加者の方へ

- 当日、受付にて参加費 1,000 円をお支払いください。
- スライドセミナーの標本供覧は、12 時より学会会場にて行います。北陸連合会のホームページ（ <https://www.jscc-hokuriku.com/> ）にもスライドの一部を掲載しております。

1. 一般演題演者の方へ

- 発表は 7 分以内、討論時間は 4 分です。
- 発表は Windows 形式による PC 発表 1 台に限らせていただきます。
- PowerPoint 2003 以降でファイルを作成してください。
- PC 発表の媒体は CD-R、USB メモリなどを持参し当日、受付にお渡しください。

2. スライドセミナー出題者、解答者の方へ

- スライドセミナーは解答・解説を含めて **1題 20分** です。
- 指定回答者は当日 **12時00分まで** に、プレパラートと臨床事項を記載した用紙を受付までお持ちください。
- 発表データは当日 **12 時 00 分まで** に、USB メモリで持参し、PC 受付に提出してください。

3. 細胞検査士の方へ

- JSC15 単位、IAC5 単位が認定されます。受付で出席シールをお渡します。

4. 細胞診専門医、産婦人科専門医、産婦人科医会会員の方へ

- 細胞診専門医資格更新 2 単位が認定されます。受付で参加費と引き換えに参加証をお渡します。
- 日本産婦人科学会専門医制度学術集会等参加登録単位 (1 単位)ならびに日本産婦人科医会研修単位は、名簿記入となります。日本産科婦人科学会の会員番号が必要となりますので会員カードを持参してください。

5. 学生の方へ

- 本学会における学生(社会人学生を含む)の参加については、学生証の提示をもって自由参加とします。ただし学生での参加の場合、本学会で取得できるすべての単位は付与されません。

〈連絡先〉

国立病院機構 金沢医療センター 臨床検査科 黒瀬 望
〒920-8650 石川県金沢市下石引町 1 - 1
TEL : 076-262-4161
E-mail : k-nozomu@kanazawa-med.ac.jp

石川県臨床細胞学会 事務局
〒920-8530 石川県金沢市鞍月東 2-1
石川県立中央病院 医療技術部 病理検査室内
TEL : 076-237-8211
Email : cytooffice@ipch.jp
